

「四川児菜」の栽培から出荷まで

ナカハラのたね

播種 ●発芽時の最適温度は20～25℃。●直播きは株間40～50cmで3～4粒の点蒔きを行い発芽後、本葉2～3枚頃間引きして1本を残す。●生育が特に急ぎすぎると、ボリュームのない商品となるのでガッチリとした株を作るためには、本葉7～8枚の頃で多少の根切り等をしてゆっくり生育させると良い。●播種時期は地域により異なるが、8月下旬～9月下旬が最適。

育苗 ●セルトレイ、育苗箱等に播種して生育40日前後(本葉5枚頃)で定植する。又、ガッチリした株にするためには20日前後(本葉2枚頃)でポットに仮植えをし、その後本葉4～5枚になった所で本圃へ定植すると良い。●育苗の利点は沢山あるが児菜の初期生育をゆっくりさせ大きな株作りとすることが最大のポイントとなる。●株作りは収穫時期を想定しながら、多少播種時期を早めて育苗する。反面早蒔きして生育を急がせると収穫初期の花蕾が徒長して商品にならない場合があるので注意する。

定植 ●育苗日数35～40日本葉4～5枚の苗を1.4mのうね幅に条間60cm、株間45cmの2条植えで定植する。●植え付け本数は10a当り2,500～3,000株とし、マルチすることで草の繁茂を防ぎ品質を高める。●定植時の圃場は十分な水分を確保し深植えしないよう注意して順調な生育をさせる。●最終(株ごと)出荷予定の定植(及び播種)は大株とならないので多少密植(株間30～35cm)することも良い。

管理 ●病害虫は生育初期よりアブラムシ、アオムシ、白さび病の発生に注意して早めの防除に心掛ける。●浅根性のため必ず高畝とし湿害は根を痛めたり、菌核病の発生になるので注意する。●低温障害を受けやすいのでトンネル、べたがけをすると寒害を回避して栽培できる。●草丈50cm前後、株茎10cm前後で葉幅50cm位の大株を作り長期に収穫できる大きさにする。

施肥 ●10a当たりの全肥料は成分量でN20kg・P20kg・K25kgを標準とし、その3/5を元肥として投入し残り2/5を追肥とする。●本葉6～8枚頃よりこまめに施肥し、肥料を一気に効かせないことが大事である。●肥料切れを起こすと出荷終盤に品質が落ち、抽苔も促進するので肥切れさせない。

収穫 ●初期は側茎の葉の間にわき芽(つぼみ)が付き、株が生育するにつれて主茎に集中的に着生する。一芽20～50gの大きさになったところで一株(大株)10～15個位を収穫する。●収穫遅れは芯部の空洞化及び、品質の低下となる。又温度が上昇すると芽が開くので適期収穫とする。●葉は淡緑の大葉となり成熟期を



パック詰めしたイメージ
※写真の出荷シールは販売しておりません。

過ぎると耐寒性が低下して葉や芽の先端が低温障害を受ける事がある。●最終出荷の播種は生育が遅く株も小さくでき一般の蕾出荷とならないので芽が集中して出来た一株を切り取りそのまま(株ごと)袋にて出荷する事により販売期間が広がる。

出荷 ●一般の出荷は100g～200gのパック詰めLサイズ4個詰め、Mサイズ6個詰め位が目安。●出荷調整はわき芽(つぼみ)部分の大きな下葉は切り取り上部の小葉を少しつけてパック詰めとする。●販売方法、出荷規格はそれぞれ違い各店舗の売れゆき、値ごろ感を見て価格等を決定する。●量販店、業務用の契約等では用途に応じ出荷形態を変え、バラ1kg～2kg袋で出荷するのも良い。

児菜(あ～さい)の肉詰め

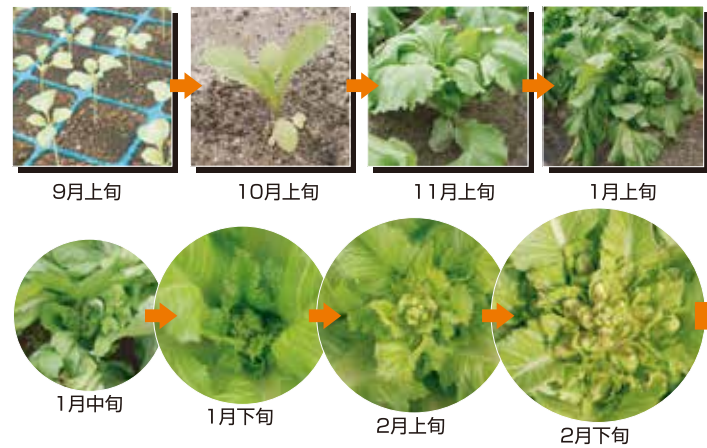
材料(1皿分)	
四川児菜(大)	4個
トマトソース	200cc
チキンブイヨン	100cc
■詰めもの	
豚ミンチ	300g
にんにく	1/2片
ローズマリー(乾燥)	1つまみ
ローリエ	1/2枚
鷹の爪	少々
白ワイン	30cc
塩・コショウ	少々

詳しくは…

QRコード

撮影協力
福岡市 p i s s e n l i t
ピサニリ

生育過程と蕾の変化



四川児菜の栽培ポイント

- 播種適期は9月上旬～下旬、発芽適温は20～25℃です。直播きの場合は、株間40～50cm・3～4粒を点蒔きし、本葉2～3枚頃に間引きを行い1本にしましょ。なお暖地の早蒔きは早期抽苔の危険性があります。また寒さの厳しい地域での栽培は適しません。
- 育苗する場合はセルトレイなどに播種した後、本葉2枚頃にポットに移植し、本葉4～5枚になったら畑へ定植すると良いでしょう。初期生育を急がせず、ガッチリとした株作りを心がけることが大きな蕾を収穫するための最大のポイントです。
- 浅根性なので、湿害による根傷みや菌核病の発生を防ぐため、排水性の良い圃場を選び高畝を準備します。定植は生育後半に株が倒れないようにやや深めに行ない、苗が活着するまでは株元に充分灌水しましょう。
- 病害虫対策は、生育初期よりアブラムシ、アオムシ、白さび病などの発生に注意し、早めの防除を心がけましょ。
- 追肥は、本葉6～8枚頃よりこまめに行い、一気に効かせないことが大切です。肥料切れは、品質低下・早期抽苔の原因となります。
- 厳寒期は低温被害を受けやすいため、トンネルやベタ掛けなどで保温し、低温障害を軽減させましょ。
- 初期は側茎に、株の生育後は主茎の頂部に「わき芽(蕾)」が集中して着生します。一芽が20～50gの大きさになったら収穫適期です。収穫の遅れは品質低下の原因となります。また気温が上昇してくると芽が開き、芯部が空洞化してくるので適期収穫を心掛けましょ。